

8-4-1 統括技術委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

統括技術委員会を偶数月に6回（4、6、8、10、12、2月）開催した。

委員会を開催しない奇数月もメール等を活用し、協議と情報交換を実施した（委員会・専門委・WGの月次報告、技術部会・常任理事会の審議・指示事項の周知・対応等）。

(2) 未来塾検討テーマへの対応

① プロポーザル拡大に向けた対応

プロポーザル方式とすることが望ましい条件を整理するとともに、斜め象限図の運用上の課題抽出（斜め象限図上はプロポーザル発注に該当するが実際の発注は総合評価で発注された具体事例等）し、適切な運用に向けた改善策の検討を行った。

② 施工計画・仮設設計における課題対応

施工計画・仮設設計における業務上の問題点について具体事例を収集するとともに、指定仮設、任意仮設に関する各種諸基準における規定について客観的整理を行った。その上で、施工計画・仮設設計の目的、成果レベル、責任範囲の明確化について検討を行った。

③ 施工条件明示チェックシートの運用

工事発注が予定されている実際の設計業務において「施工条件明示チェックシート」を作成し、その後の運用状況についてモニタリングを行った。現状で活用されにくい状況があったため、運用上の課題を整理し、今後に向けた提言を行った。

(3) テーマ設定型技術公募への対応

新技術活用の更なる促進を目的としたNETIS活用方式の1つである「テーマ設定型（技術公募）」におけるテーマ設定に際して、建コン協会として設定が望ましいと考えられる技術テーマを選定・提案した。

(4) 国総研・土研との意見交換会の開催

12月に国総研・土研との意見交換会を開催し、技術委員会（専門委員会を含む）の活動実績、今後の活動方針を提示の上、要望と提案事項を協議した。

(5) 共通仕様書、標準歩掛の改訂要望の提出

現行の共通仕様書及び標準歩掛について改訂要望を提出した。改訂要望は項目が多岐に渡るため、共通仕様書、標準歩掛のそれぞれについて改訂の優先順位を設定した。

(6) 統括技術委員会の横断的活動

（主要事項のみ）

- ① 国総研研究評価委員会委員として、国総研研究に対する意見具申を行った。（年2回開催）
- ② 5つのWG（生産性向上WG、維持管理対策WG、業務体系WG、公益活動WG、業務研究発表会WG）の活動を実施した。
- ③ 「業務研究発表会」の企画・運営に参画し、令和元年9月12日に開催した。（論文応募数90編、参加者数232名）
- ④ 雑誌「土木施工」の編集委員として参加した。

2. 次年度の活動について

- ① 事業計画に基づく技術委員会の定例的活動
- ② 技術委員会が対応すべき分野横断的な諸テーマの検討、特に統括技術委員会の各WGで検討する課題については、早期かつ確実に対応を実施
- ③ 技術部会からの指示事項の検討
- ④ 3技術委員会からの要望検討、上位機関への上程
- ⑤ 業務研究発表会開催と他行事の対応・支援
- ⑥ NETIS関連の対応
- ⑦ RCCM自主学習・教材の作成・更新
- ⑧ 国交省等調査への対応
- ⑨ 土研、国総研との技術交流
- ⑩ 白書・対外活動への支援、他

（技術委員会委員長 菅原 正道）